

報告

第 48 回日韓技術士国際会議への参加

永 田 泰 浩

1. はじめに

2018 年 10 月 17 日から 19 日の日程で、第 48 回日韓技術士国際会議が開催されました。今年は日本側、神戸市での開催となりました。好天に恵まれ、清々しい空気の中、日韓の技術的な交流を行うとともに、国境を越え、人と人のつながりを感じられる素晴らしい会議となりました。北海道本部からは、青年技術士交流委員会の永田が参加致しましたので、ここに報告させていただきます。

2. 本会議

本会議は 10 月 18 日に開催されました。会場となったホテルオークラ神戸(写真-1 右側)は、神戸海洋博物館(写真-1 中央)や神戸ポートタワー(写真-1 左側)が目の前にあり、よい雰囲気の中、充実した会議となりました。今回の大会のテーマは、「次世代 Smart City の展望と技術士の役割～経済・社会・技術要素の融合」。日本側の河野千代技術士による基調講演「技術士が叶える Society5.0 ～アントレプレナーシップ(Entrepreneurship)を發揮して」を皮切りに、会議がスタートしました。



写真-1 会議会場(右端の建物)付近の様子

3. 分科会

本会議に引続き、分科会が開催されました。今回は、第 1 分科会「基盤分野」、第 2 分科会「Energy」、第 3 分科会「技術倫理」、第 4 分科会「先端分野」、第 5 分科会「英語発表」の 5 つの分科会で構成されていました。私は第 1 分科会「基盤分野」に参加をしました。話題が森林事情、下水道、都市計画など多岐にわたる中、韓国側の道路整備の発表では、海外事例として「シーニックバイウェイ・風景街道」が紹介されており、自分も関わる活動が事例として紹介されていて大変光栄でした。一方、基盤分野ということで、社会基盤についての発表が多い中、韓国式の床暖房であるオンドルの歴史的考察の発表があり、大変興味深く発表を聞くことができました。日韓両国の最先端技術交流は、会議のひとつの目的となっていますが、日韓技術士国際会議の出席者には常連の方も多く、お互いの顔を知り、親密な関係も築きつつあることから、このように日韓独自の文化を紹介し合うことも、お互いをもっと知るためには大切なのかもしれません。



写真-2 分科会の様子

4. 日韓親善晩餐会

10月18日の夜には日韓親善晩餐会が開催されました。晩餐会で最も盛り上がったのが“サンバ”。神戸市がサンバで有名だとは全く知りませんでした。国籍、老若男女を問わず、多くの参加者が大きな輪を作って、サンバのリズムにのって宴会場を練り歩くのはなかなかの盛り上がりと一体感でした。これまで何度も日韓技術士国際会議に参加していますが、最も盛り上がった晩餐会だったかもしれません。



写真-3 サンバのリズムで盛り上がった晩餐会

5. 日韓技術士親善サッカー大会

本会議の前日、17日には、「第14回日韓技術士親善サッカー大会」が、神戸王子スタジアムで開催されました。昨年、釜山において0-2で敗れている技術士Japanは、首都圏のメンバーを中心に練習会も開催。北陸支部との練習試合も行い、チームの底上げを図ってきました。一方の韓国チームも、技術士サッカー部として毎週末練習を行い、リーグ戦などに出場している強豪です。韓国チームは今年も気合十分でスタジアムに現れました。



写真-4 神戸王子スタジアムでのサッカー大会

先に点を取ったのは韓国チーム。エース朴さん(写真-5左側)のシュートが綺麗に決まり先制。一方の日本チームは、連携の良い韓国チームの攻撃に苦しみつつも、カウンターを仕掛けますが、センターバックの金さん(写真-5右側)の好守もあり、なかなか得点に結びつけることができません。それでも、後半、相手のミスに付け込んでなんとか一点をもぎ取りました。今年こそは勝利を！とその後も日本チームは頑張りましたが、結果は1-1。引き分けの場合にはアウェイチームの勝ちとする特別ルールによって今年も韓国チームの勝利となりました。

私はサイドバックとフォワードでフル出場しましたが、最終的に引き分け。来年こそは必ずアウェイで勝利のマッコリを飲みたいと思います。

6. おわりに

私の日韓技術士国際会議への参加も、第38回の新潟大会から数え10回目となりました(1回欠席)。今では、サッカー場ではもちろん、本会議や分科会でも「ナカタ～(←ちょっと間違っているが)!!」と声をかけてくださる方がとても多くなり、晩餐会では会うとやたら飲まされるようになりました(汗)。これからも、韓国側の技術士の皆さんと、人と人のネットワークを育んでいきたいと思っています。



写真-5 朴さん(左)と金さん(右)とともに

永田 泰浩(ながた やすひろ)

技術士(道路/建設/総合技術監理部門)
(一社)北海道開発技術センター

